

# ロバート キャンベル氏と語る 東京の文学

日時:

2014年

7月8日(火)

16:30~18:00

(開場16:00)

会場:

早稲田大学小野記念講堂

プログラム

第一部:ロバート キャンベル氏講演会

第二部:ロバート キャンベル × 十重田裕一 対談

★ロバート キャンベル氏書籍販売

16:00~ 小野記念講堂ロビー

★終了後、18:00~18:30にサイン会を行います。(先着30名)

対象:当日ロビーにてロバート キャンベル氏の書籍をお買い上げいただいた方先着30名様に整理券を配布します。

(持込書籍は対象となりません。)

入場無料 / 要申込 / 全席自由

■お申込方法(先着順):

①早稲田大学学生・教職員

6月3日(火)9:00~7月4日(金)17:00 Waseda-netポータル

左側メニュー申請フォーム(発信元:文化推進部文化企画課)「ロバート キャンベル氏講演会(7/8)観覧申し込みフォーム」

②一般の方:6月27日(金)以降、定員に空きがある場合のみお申込みいただけます。

詳細は6月27日(金)に、早稲田文化ホームページ(<http://www.wasedabunka.jp>)にて発表予定です。

主催:早稲田大学文化推進部文化企画課

TEL: 03-5272-4783(月~金 9:00-17:00)

FAX: 03-5272-4784

Eメール:[art-culture@list.waseda.jp](mailto:art-culture@list.waseda.jp)

第一部では、日本文学研究者・東京大学大学院教授であり、各メディアでご活躍中のロバート キャンベル氏をお招きして、東京を舞台に創作された日本文学についてお話を伺います。明治時代から現在に至る東京の文学について考察しながら、世界的都市・東京を新たな視点で見つめ直します。

第二部では、日本近代文学研究者の十重田裕一教授との対談を開催。明治維新以後、大きな変化を遂げた東京の街を舞台に、多くの小説が創作されました。膨大にある、日本の首都を舞台とする小説の一部に言及しながら、東京という劇場で演じられた文学について、皆さんとともに語り合いたいと思います。

## プロフィール



### ロバート キャンベル (Robert Campbell)

#### 東京大学大学院総合文化研究所教授 (日本文学担当)

ニューヨーク市生まれ。カリフォルニア大学バークレー校卒業後、ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了、文学博士。

1985年に九州大学文学部研究生として来日。同学部専任講師、国文学研究資料館助教授を経て、2000年に東京大学大学院総合文化研究科助教授に就任。2007年から現職。テレビ番組や新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組など、さまざまなメディアで活躍中。



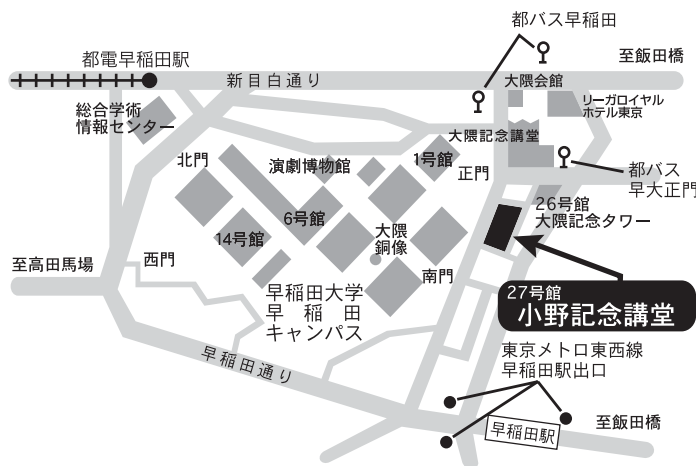
### 十重田 裕一 (とえだ ひろかず)

#### 早稲田大学文学学術院教授／早稲田大学文化推進部長

東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了、文学博士。主著に『岩波茂雄 低く暮らし、高く思ふ』(ミネルヴァ書房、2013年)、『「名作」はつくられる—川端康成とその作品』(NHK出版、2009年)、編著として『横断する映画と文学』(森話社、2011年)、『占領期雑誌資料大系 文学編』全5巻(共編著、岩波書店、2009～2010年)など。

## <交通アクセス>

JR山手線 / 西武新宿線 高田馬場駅 徒歩20分  
地下鉄東京メトロ 東西線 早稲田駅 徒歩5分  
副都心線 西早稲田駅 徒歩17分  
学バス (高田馬場駅—早大正門) 徒歩1分  
都バス (新宿駅西口—早稲田) 徒歩3分  
(渋谷駅—早大正門) 徒歩1分  
(上野広小路—早稲田) 徒歩3分  
都電 早稲田駅 徒歩5分  
※学内に駐車場はございません。



お問い合わせ: 早稲田大学文化推進部文化企画課

TEL: 03-5272-4783(月～金 9:00-17:00) FAX: 03-5272-4784

Eメール: art-culture@list.waseda.jp

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学26号館大隈記念タワー2階

※「早稲田文化」HPよりイベントメールニュース登録受付中 <http://www.wasedabunka.jp>

## 「早稲田小劇場ドラマ館」について

早稲田キャンパスに沿った南門通りには、現在世界的に活躍されている演出家・鈴木忠志氏をはじめとする劇団早稲田小劇場が建設した同名の劇場がありました。「早稲田小劇場」は当時の小劇場運動の中心的な劇場として数々の名作を世に送り出し、訪れた人々に大きな影響を与えました。その後、建物の契約終了に伴い、鈴木氏は富山県利賀村に本拠地を移し、劇場は「早稲田銅鑼魔館」として民間の貸劇場として運営されるようになりますと学生劇団の発表の場として長年親しまれてきました。

残念ながら耐震強度不足により2012年10月に一度その幕を閉じましたが、この度、学生の提案がきっかけとなり、跡地に「早稲田小劇場ドラマ館」として新しい劇場が建設されることになりました。2014年5月から建設を開始し、2015年3月に完成予定です。完成後は主として学生サークルの演劇公演等に活用されることになります。

早稲田大学ではドラマ館の起工を記念し、様々なイベントを開催します。詳しくは、早稲田文化ホームページに随時掲載していきます。

<http://www.wasedabunka.jp>